

Abstract

エージェント—構造問題に関する理論的研究の新潮流

泉川 泰博（中央大学総合政策学部教授）

エージェント＝構造問題とは、システムを構成する構造と行為者との関係性に関するものである。構造が行為者を制約するのか、それとも行為者の行動の相互作用が構造を規定するのかは、社会科学の重要テーマの一つであり、安全保障・国際関係に関する理論研究にとっても例外ではない。というのも、国際システムがいかにかに国家やその他のアクターに影響を及ぼすのか、あるいは後者の行動が国際システムをどう変化させ得るのかに関する理解は、何が適切な安全保障政策なのかを考える上での論理的土台になるからである。本論では、この問題に関する3つの新たな理論的アプローチ——ネットワーク分析、複雑系の概念を活用したモデル/シミュレーション分析、およびリアリズムにおける同盟戦略研究——を紹介し、その特徴を分析したうえで、そうしたアプローチが注目されるようになった背景や、今後の研究に与える影響について考察する。

『国際安全保障』第44巻第4号（2017年3月）8—23 ページ。